

# 学長インタビュー

名古屋外国語大学  
かめやま いくお  
亀山 郁夫 学長

## エンパシー溢れる 世界教養人を育成する

名古屋外国語大学は昭和六十三年（一九八八）に中部地区初の外国語大学として誕生しました。語学ができて国際感覚に富んだ人材育成を求める社会の期待に応え、外国語学部の英米語学科、フランス語学科、中国語学科の三学科でスタートしました。建学の精神には「人間教育と実学」を掲げ、一人一人の学生を大切にすると、語学力と国際感覚を磨き、信頼され愛される人材の育成を重視しています。

平成六年（一九九四）に国際経営学部を開設して二学部体制となり、平成九年（一九九七）には大学院コミュニケーション研究科を設置。さらに平成十一年（一九九九）に外国語学部に日本語学科を設置しました。平成十六年（二〇〇四）には現代英語学科、国際ビジネス学科の二学科を置く現代国際学部を開設（国際経営学部募集停止）。平成二十年（二〇〇八）には外国語学部に英語教育学科、そして平成二十五年（二〇一三）には現代英語学科をリニューアルして国際教養学科を発足するなど時代に合わせた改革を行い、現在二学部八学科一研究科を擁する外国語大学として発展しています。さらに、平成二十七年（二〇一五）に外国語学部は世界教養学科を新設するとともに、英米語学科は英米語専攻と英語コミュニケーション専攻の二専攻制を採用するなど進化を続けています。

今回のインタビューは、さらなる躍進を目指す名古屋外国語大学の改革の方向性を中心にお話を伺いました。

### グローバル化時代において進化する名古屋外国語大学

前職の東京外国語大学長から名古屋外国語大学長に就任されての抱負をお伺いします。亀山学長は東京外大の学長時代に外国語学部

を言語文化学部と国際社会学部の二学部に再編するなど「改革の旗手」として知られていますが、名古屋外大の改革のベクトルはどの

イントは二つあります。一つは本学が「外国語大学」の名前を冠して今後生き延びていくためには、やはり一定程度の「多言語性」を担保しなければなら

いということ。もう一つは、真のグローバル人を育てる際に英語以外の「何か」をしかりと身につけさせる教育システムを構築することが重要だということ

### 外国語大学のChallenge for the nextは何か

学長 これまでのグローバル化時代は多言語性を指向している多くの大学にとっては逆風でした。右上がりの時代、とりわけ高度成長期であれば、多言語指向とグローバル人材の育成は一致していました。英語以外の言語を学ぶことがまさにグローバル化の先陣を切ることだったわけ

名古屋外国語大学が「外国語大学」という

名を冠しながら、ここまで右肩上がりに経営できたのは英語教育に重点を置き、また留学制度を充実させるなど先進的な改革を行ってきたからです。しかし、今の私の予感では、英語が「外国語」でなくなるときが遠からず来る。つまり、小学校から英語教育が行われ、高校が終わる段階での学生たちの英語能力は、少なくともオーラルレベルでは、今後十年で、今と比較してまったく違ったレベルのものになる。そ

### “多言語性”と“英語+α”

学長 「外国語大学」という名前を冠している大学は日本に七つあります。私が東京外大の学長になって間もなく大阪外国語大学が大阪大学に統合されて、八つあったのが七つになりました。学長同士のさまざまな情報交換の場があるわけですが、そうした場を通して伝わってくる名古屋外大の取り組みの先進性には何か驚嘆すべきものがありました。とりわけ英語教育のあり方に関しては他の大学に先駆けてさまざまな先端的な取り組みが行われており、こちらをひな型にして東京外大の改革を行ったという経緯があります。名古屋外大の学長に就任する際、英語教育のシステムについては、何ら手を付ける必要はないというくらいの思いがあったわけ

学長 では一体、私が名古屋外大の学長としてすべきことは何かということですが、ポ

うなったとき、英語の次の言語の選択が人生にとって大きな意味を持ち始めます。つまり、「Challenge for the next」と私は呼んでいるのですが、英語の次に何が来るのかということをお外国語大学として見据えなければなりません。

### 世界に通じる教養Ⅱ「世界教養」

学長 いったい何が「Challenge for the next」であるのか。それは、世界の諸地域に密着した知識、あるいは知的体系のあり方であり、教養だと考えています。英語という基盤があり、その上で、何らかの地域に対する関心、あるいは言語に対する関心を持ち、その地域圏に対する一定水準の教養を備えていること、つまり、世界に通じる教養Ⅱ「世界教養」(World Liberal Arts)を備えていることが、これからの時代を勝ちぬくグローバル人の一つのあり方になるでしょう。

前提となるのはむしろ英語ですし、グローバル・ビジネスの面においては英語が力を発揮するでしょう。しかし、ビジネスは世界のあらゆる地域で展開されるわけですから、この地域圏に対する一定水準の教養を持っていなければ、グローバル人として薄っぺらであり尊敬もされません。

外国語大学であればこそ、そこを克服する教育体系、カリキュラムをつくる必要があるのです。



亀山 郁夫 学長

- 昭和24年2月10日生まれ
- 47年3月 東京外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業
- 49年3月 同 大学院外国語学研究所修士課程修了
- 52年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
- 昭和52年4月 日本学術振興会特別研究員
- 53年4月 天理大学助手・講師・助教授
- 62年4月 同志社大学助教授
- 平成2年4月 東京外国語大学助教授
- 5年4月 同 教授
- 10年4月 同 評議員
- 11年4月 同 総合文化研究所所長
- 12年4月 同 総合文化講座長
- 17年9月 同 附属図書館長（教育研究評議員）
- 同 学長特別補佐（開放広報、学術情報担当）
- 同 学長
- 19年9月 同 学長
- 25年4月 名古屋外国語大学学長

# 平成27年4月「世界教養学科」を新設

— 今お話の「世界教養」をその名に冠した「世界教養学科」を新たに誕生させるということですね。

**学長** 来年（二〇二五）四月、外国語学部  
に世界教養学科を新設し、入学定員一〇〇名  
で発足します。

世界教養学科のカリキュラムは、一年次の英語の授業が本学で一番多いことからわかるように、英語の運用能力を徹底的に向上させるとともに、複言語、つまり第二外国語にもものすごく力を入れていきます。加えて、「世界教養プログラム」と学部共通の「アカデミックスキルズプログラム」によって世界基準の教養を備えるジュネラリストの養成を目指します。

## 複言語として11言語を用意

**学長** 複言語には、国連公用語を含む11言語（英語・フランス語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ロシア語・アラビア語・イタリア語、ドイツ語・韓国語・インドネシア語）を用意しています。複言語の習得を通じて、複眼的な視座を獲得し、多言語多文化共生のグローバル社会を舞台に活躍できる人材になってもらいたいと考えています。これからは、たとえば中国語を選ぶことは

同時に英語力も高めてもらう。さらに三、四年次には「世界教養ゼミナール」や「卒業研究」によって専門的な知識を深め、課題解決力、情報分析力、論理的思考力、伝達力を育成する。これによって、成熟した真にグローバルなマインドを持った職業人を養成していきます。

## 学生3人に外国人教員1人

— 名古屋外大の特色ある少人数教育PUT（パワーアップチュートリアル）についてお伺いします。

**学長** PUTでは学生三人に外国人教員一人が指導する「超」少人数授業を実現しています。

— それはすごいですね。

**学長** 他大学が真似ようとしてもなかなか真似のできない本学の強みだと思いますが、PUTは、専攻する言語に関わりなく全学部全学科において一年次に英語で実施します。相槌や質問の切り出しなど基礎的な語学スキルを体得することで、①外国語に対する気後れや緊張を取り除く、②外国語の本来の姿に触れて、言語に対する柔軟性を養う、③さまざまな視点や考え方に触れて、国際感覚や専門性、コミュニケーション能力や論理的思考力を養う——などの効果があります。さらにそれらを磨き上げるべく様々な仕組みを用意してきめ細かく展開しています。

このほか、それぞれの専攻において、プレ

かなり有利な選択になるでしょうけれども、それぞれの知的な関心によって、英語の次に学ぶ言語あるいは地域にかかわる知識がその人の人生を大きく左右することになります。

卒業後の進路としては、国際機関職員、外務省専門職、地方自治体国際関係部署職員、通訳・翻訳、マスコミ・ジャーナリスト、商社・金融などを想定していますが、学生が就職したときには「君はこの言語ができるのか。じゃあ、そこに派遣しよう」といった企業等の側のプロポーザルが大きな意味を持つようになるわけです。

その意味で、世界教養学科において英語と日本語のほかに学ぶことのできる一〇の言語が、これからクローズアップされることになるのです。

## エンパシーを培う

— 「世界教養プログラム」についてお伺いします。

**学長** 人類が築き上げるべき世界で求められるのは、国境を越えて、文化的に開かれた優しい知性と教養にあふれた人間、他者の幸福、他者の繁栄があつて、初めて自分の幸福、自分の繁栄があるという認識に立てる人間です。そのマインドの根幹をなすものが、他者

ゼンテーションやディスカッションを行うために学生六人に対して外国人教員一人を設定したり、あるいは一五人の学生が三人から五人のグループに分かれてグループディスカッ

## 二カ国への留学を全額支援

— 名古屋外大は「留学に強い大学」「就職に強い大学」として高い評価を受けていますが、力を入れている取り組みについてお伺いします。

**学長** 本学は手厚い留学支援を行っていますので、本気で世界に挑戦しようとするやる気のある学生にはものすごく有利です。たとえば、「留学費用全額支援制度」を設けていて、長期留学した学生の三人に二人は経済的負担のかからない留学をしています。留学先大学の授業料、居住費、渡航費、教科書代、保険料、留学ビザ申請料の全額を大学が負担していますが、一定の成績に達すれば良く、対象者の人数枠は設けていません。また、世界教養学科を設けるにあたって、新たに二カ国留学制度を創設します。

— 二カ国への留学を支援するのですか。

**学長** ええ。言語や文化の多様性に複数の留学先で触れてほしいという観点から、留学費用全額支援制度を二カ国への留学に対応させます。

— 一カ国への留学で満足しそうなところ、画期的な取り組みですね。

への共感。「エンパシー」(Empathy)であり、それを培うものが教養です。本学が目指すのは、グローバル時代を生き抜く知恵となり、力そのものとなる世界標準の教養を持ったエンパシーの心に溢れる世界教養人の育成です。そのために、「導入科目」「基盤科目」「応用科目」の三段階で、英語力と教養を同時に高めていくのが「世界教養プログラム」です。

## 「世界を理解し、日本を見つめ直す」

**学長** まず、「世界理解の方法」と「日本理解の方法」という二つの導入科目を一年次の必修科目としています。高校までの知識を整理し直して、世界における日本の役割というものをしっかり認識するために「世界を理解し、日本を見つめ直す方法」を学び、その後の基盤科目や応用科目で学ばさまざまな教養を吸収する土台づくりをしましょう。

基盤科目では、オムニバス方式の授業で「世界の文学と文化」「世界の美術と音楽」「世界の民族と宗教」「世界の政治と経済」の四科目を包括的に学び、応用科目を履修する前に学生の興味・関心の方向性を発見させます。

応用科目は「人文」「学際」「社会」の三分野各二四テーマ、計七二科目からなり、学生が自らの関心に合わせて系統立てて学ぶことができます。また、七二科目のうち、三分の一は英語開講授業であり、教養を深めるのと

ションを行うといった少人数教育も開講しています。これらの講義で、外国語での議論や発信する力を養い、三、四年次に外国語で行う専門研究や長期留学に備えています。

## 米デイズニールドで 有給実習

**学長** このほかにもさまざまな留学制度を設けて「語学力向上」にとどまらずに「人間形成」や「キャリア形成」を図っています。たとえば、UCR（カリフォルニア大学リバーサイド校）特別留学では、全米屈指の名門校の正規授業を履修しながら、米国のデイズニールドやヒルトン系リゾートホテルで半年間の有給実習を行い、あらゆるサービス業に通じる社会的実践力を磨くことができます。

今後でもできるだけ多くの学生をできるだけ有利なカタチで海外に送り出していきたいと考えています。実際、一年間でも海外経験をすると、他者に対する萎縮といったものはなくなりますから、将来伸びていくためにも海外経験は大事です。

## 外国人教員の割合 中部地区1位

— 外国人教員や外国人留学生はどのくらい

いるのでしょうか。

**学長** 現在一五六名の外国人教員が在籍しています。教員に占める割合は三〇・四％で中部地区第一位、全国第八位です。留学生は平成二十五年度実績で一七八名、七六％が英語圏とフランス語圏です。本学には世界の二八の国・地域から三三二人の外国人教員・留学生が集まっています。

## 目指せTOEFL 550点

——留学や就職に必要なTOEFLやTOEICへの学習支援はいかがですか。

**学長** TOEFLについては、五〇〇点が

## 就職先が決まるまで熱意と誠意で対応

——就職支援について伺います。

**学長** 本学の学生は明るくまじめで前向きです。授業でのレスポンスも良く、意見をしっかりと発言する学生が多いですね。将来に向けても、語学を活かしてエアラインや旅行・ホテル業界、アナウンサーなどマスコミ業界などへの就職を希望して、夢の実現に向け頑張っていますから、キャリア教育・職業教育についても全学的に強化していて、就職を希望する学生全員について就職先が決まるまで熱意と誠意をもって対応しています。

「キャリアデザイン科目」やインターンシップ科目をはじめ、航空業界や英文財務会計、

一つのラインなのでしょね。本学ではそこからが留学支援の対象となり、五五〇点以上取った学生については全額大学負担で海外留学に行けるようになっていきます。

本学では学内でTOEIC（年三回）、TOEFL（年四回）の受験ができるほか、独自の教育システムで学生のスコアアップを支援しています。スクール形式で学べる試験対策講座をはじめ、学内や自宅でできる自習教材の提供、マンツーマンのカウンセリング、セミナーやイベントなど充実したサポートが利用できる環境があります。試験対策講座については、三〇時間の受講で二〇〇点以上伸びた学生もいます。

英文管理会計など、英語を活用する職業分野と深く結びついた科目も多数開講しているほか、学生支援体制についても昨年四月に「学生支援センター」を発足するなど整備をしています。

また、サテライト就職支援室を東京駅前、大阪駅前、名古屋駅前など各地に設置しています。さらに、就職合宿の実施、各種就職支援講座の拡充、遠隔地での就職試験のための旅費援助など全学をあげて学生の就職活動に対する支援を実施しています。

大学の立地が雇用吸収力の高い愛知にあり、学生に対する企業の求人動向は他の地域と比

本学をはじめ全国の外国語大学が輩出する人材が縦横に活躍することになるでしょう。

## 姉妹校の名古屋学芸大学と連携

——同じキャンパスにある名古屋学芸大学との連携について伺います。

——学長のリーダーシップと大学のガバナンスについてお考えを伺います。

**学長** リーダーシップとは説得力なわけではありません。大学には大学独自の組織文化があり、組織文化の改革がなければどのような改革も成功には至りません。学長に強大な権限が与えられても、理解説得のプロセスをネグレクトすれば学内は混乱します。大学改革には組織文化との対話が不可欠であり、学長には説得力が求められます。

リーダーシップをとる人間というのは、自分自身の矛盾をしっかりと見つけなければならぬ。つまり、自分自身をしっかりと見つけて、それが世界の矛盾とどのくらいリンクしているかということを見定めた人間が、説得力を持つのです。リーダーシップというのは、すぐれた自己省察に基づく存在感なのでしょう。

ガバナンスについては、本学の場合は、私学として、法人のガバナンスと大学執行部に

べて良好です。たとえば、中国語学科は、最近の国際情勢を反映してか志願者数はやや低迷しているのですが、卒業生の就職決定率は一〇〇％です。

## 東京外大と幅広い連携を進める

——他大学や他機関との連携の取り組みについて伺います。

**学長** 本学は愛知学長懇話会による単位互換など他の機関との積極的な連携を進めています。

今年の三月に東京外国語大学と教育研究等の幅広い分野にわたる交流協定を締結しました。次世代を担う「世界教養」を基軸に相互の特色やリソースを組織的に活かしていきます。たとえば、単位互換をはじめ、両大学の海外提携校への共通留学や入試広報活動への協力、学生就職活動施設の相互利用など、幅広い連携を進めていきます

## 「全国外大連合」を結成

**学長** また、全国の七つの外国語大学（関西外国語大学、神田外国語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、東京外国語大学、長崎外国語大学および本学）で「全国外大連合」を結成しました。今年の六月に「全国外大憲章」の調印式を行ったところです。

それから、平成二十五年に名古屋大学、三重大学および愛知教育大学の三大学から、留

**学長** 名古屋学芸大学とは同一キャンパスということ、大学祭も共同開催しており、名称も「合同祭」と言っています。クラブ活動も両大学学生が参加しています。

同一キャンパスにある名古屋学芸大との連携により、総合大学のメリットを得ることができると考えています。

## リーダーシップとは説得力

よる教育と研究のガバナンスという二重のガバナンスがあり、極めて有効なシステムとして機能していると思います。

## “クリエイティブ・ガバナンス”が求められる

**学長** ガバナンスというとき、現状を維持していくものがガバナンスであるならば、それは意味がないでしょう。“クリエイティブ・ガバナンス”ということが求められるのではないかと思っています。つまり、クリエイティブに導いていく、あるいは示範していく、統御していく方向のガバナンスでなければならぬでしょう。

大学改革を行おうとするときには、大学というのはアイデンティティが危機にさらされて必ずぎくしゃくする。足並みが乱れるのです。そこでどれだけガバナンスが機能するかということが大事なんです。そこはやはり信頼関係ではないかと思っています。 ▣

学を希望する学生に対する英語教育、外国人留学生に対する日本語教育についての講座を開設してほしいという要請があり、留学希望者向けの「TOEFL講座」や外国人留学生向けの「サバイバル日本語講座」をそれぞれ用意して名大・三重大・愛教大連携語学講座を開講しています。

また、近隣の五大学（愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、名古屋学芸大学、本学）との連携による共同図書環（館）事業や、文科省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に採択された岐阜県立大垣北高等学校や私立東海学園高等学校との高大連携事業なども進めています。

## 外国語大学出身者が活躍する時代

**学長** それから、本学をはじめ全国の大学・短期大学の約半数の五五〇校は、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、それぞれの資源を活用してオリンピック教育の推進や大会機運の醸成等の取り組みを進めるために、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」と連携協定を締結しています。今後、さまざまな取り組みを進めていくこととなります。

東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは本当によろこばしいこと。サッカーのワールドカップもそうですが、われわれに英語の重要性と同時に、多言語の重要性を教えてください。オリンピックに向けて、